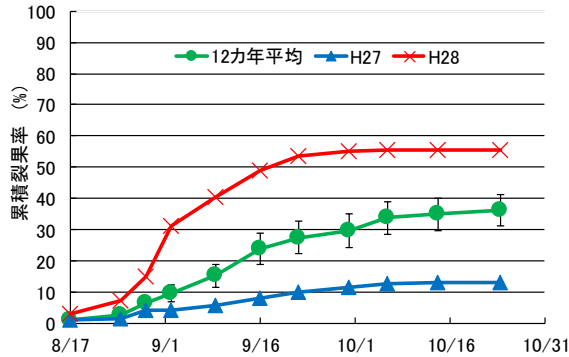


‘甘平’の裂果対策

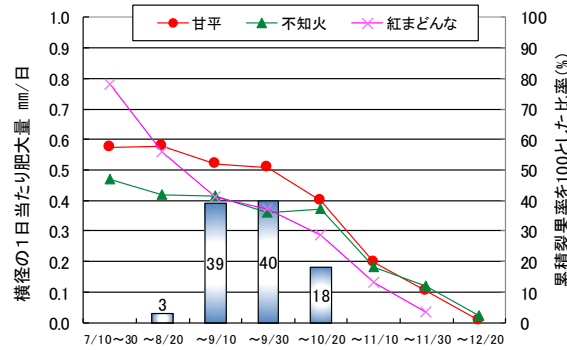
裂果を少なくするためには、開花期から果汁増加期(5~9月)にかけて少量多頻度かん水を実施して、土壌水分の急激な変化を避けることが重要。

年次間差 (露地通常かん水)



12年平均裂果率は36%

果実肥大量



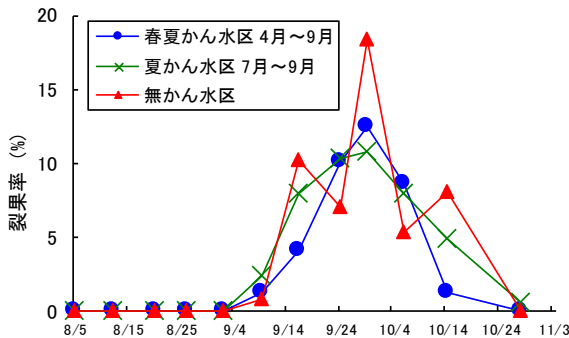
裂果ピークは9月中旬、横径肥大旺盛

裂果を軽減するためには

- 開花期からの少量多頻度かん水 (電磁弁利用) が有効
- 日肥大較差を軽減するための朝方かん水
- 遮光ネット利用による高温緩和
- 樹を落ち着かせ、仕上摘果は3割多めに残す

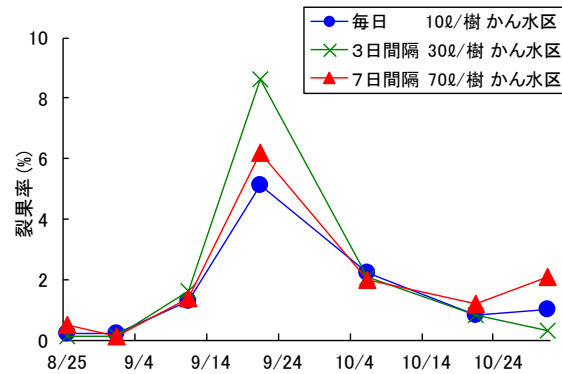
裂果の要因は多岐に渡るため園地環境に応じた対策を講じる

少量多頻度かん水



かん水期間の違いと裂果率の推移 (2009)
10日間隔で1樹当たり100ℓのホースかん水

春夏かん水が有効



かん水間隔の違いと裂果率の推移 (2011)
かん水期間は7月下旬~10月上旬

毎日かん水が有効

点滴チューブの設置

